

## 文化人類学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講学期	曜日	講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
文化人類学特論Ⅲ	法人類学	2	石田慎一郎	集中(1学期)			文化人類学特論Ⅲ
文化人類学特論Ⅳ	中東イスラーム人類学	2	嶺崎寛子	集中(1学期)			
文化人類学研究演習Ⅰ	文化人類学の視野と思考	2	越智 郁乃	1学期	月	3	文化人類学研究演習Ⅰ
文化人類学研究演習Ⅱ	文化人類学の視野と思考	2	川口 幸大	2学期	月	3	文化人類学研究演習Ⅱ
文化人類学研究演習Ⅲ	英語古典原書講読	2	沼崎 一郎	2学期	木	2	文化人類学研究演習Ⅲ
文化人類学研究実習Ⅰ	フィールドワークの理論と方法	2	沼崎 一郎	1学期	水	3・4	文化人類学調査実習Ⅰ
文化人類学研究実習Ⅱ	フィールドワークの理論と方法	2	沼崎 一郎	2学期	水	3・4	文化人類学調査実習Ⅱ

科目名：文化人類学特論Ⅲ／ Cultural Anthropology (Advanced Lecture) III

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中（1学期）、単位数：2

担当教員：石田慎一郎（非常勤講師）

講義コード：LM98813、科目ナンバリング：LGH-CUA603J、使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：文化人類学特論Ⅲ】

1. 授業題目：

法人類学

2. Course Title (授業題目)：

Anthropology of Law

3. 授業の目的と概要：

法とは何か——人類学の視点ならびに東アフリカ農村の事例を中心に講義する。本講義では、ケニア中央高地イゲンベ地方農村の事例研究から出発し、世界各地の比較事例を用いて、法人類学の主要な論点を順に検討する。ここでは、オルタナティブ・ジャスティスとリーガル・ブルーリズムを対比するが、その両者を総合し、真に人間的な法とは何かを考える学問としての法人類学を目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course investigates key issues and new directions of legal anthropology. Based on ethnographic materials and anthropological theories/methods for understanding different justice systems in Africa and beyond, students will develop critical knowledge of human laws/laws for the human-being in comparative perspectives.

5. 学習の到達目標：

- ・法人類学における主要な論点を理解する。
- ・民族誌事例の分析をより一般化した法人類学的議論に展開する。
- ・法人類学研究を通じて人類学全般に可能な比較分析の方法を学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

1. To provide students with an overview of key theoretical issues in anthropology of law.
2. To help students connect ethnographic materials/case studies to generalized/theoretical discussions in anthropology of law
3. To help students become familiar with theoretical frameworks for comparative anthropology

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1日目 待つことを知る正義

1. 人が人を裁くことの根源的困難に向き合う（イゲンベ農村における呪術師の仕事場から〔映像視聴・事例研究〕）
2. 待つことを知る社会の正義（アフリカ民族社会の4類型〔比較研究〕）
3. 個を覆い隠す社会（イゲンベ農村の正義を支えるもの〔事例研究〕）
4. 交渉を停止する（オルタナティブ・ジャスティスの人類学〔比較研究〕）

2日目 他者を知る法の理論

5. 法を取り戻す（ターンブル「孤独なアフリカ人」と千葉正士の法主体論）
6. ある不完全な理論の新世代（千葉法学の源流と展開）
7. アフリカ慣習法の柔軟性と確定性（婚姻慣習法の発見とリストメントの使い方〔事例研究〕）
8. 個人を語る社会／社会を語る社会（法の創造における「第三の法主体」の役割〔事例研究と比較研究〕）

3日目 人を知る法の理論

9. 人と人との絆を律する法（ウェーバー契約論と社会人類学〔理論研究〕）
10. 法を呼び込む（アフリカ婚姻慣習法をめぐる形式主義と反形式主義〔事例研究〕）
11. 苦悩する当事者と裁判官（リーガル・ブルーリズムの入口と出口〔比較研究〕）

4日目 法を知る人類学

12. 法をめぐる二つのパラドクス（応答的法とは何か〔理論研究〕）
13. 法的人間（真の法人類学への道程〔これまでの議論をふまえた総説〕）
14. 法と政治（グラックマンを読み直す〔不朽の民族誌との新たな出会い〕）
15. 総括

8. 成績評価方法：

リアクションペーパー（各日の講義最後の30分間で、その日に学んだことや気づいたことをA4一枚にまとめ、提出してください）〔40%〕、授業参加（積極的な授業参加を高く評価します。授業に先立って、教科書中の事例研究を中心とする2章、4章、6章（のいずれか、あるいは可能であれば全て）について読んでおくことが望ましい。事前に熟読した受講生には該当部分についてミニプレゼンテーション（形式自由）の機会を提供するので予め準備しておくこと）〔30%〕、書評（教科書のいずれかの章もしくは授業内で紹介する文献を熟読し、書評レポートを提出してください。A4二枚～三枚）〔30%〕

9. 教科書および参考書：

教科書：

石田慎一郎『人を知る法、待つことを知る正義—東アフリカ農村からの法人類学』勁草書房、2019年  
参考書：

アラン・シュピオ『法的人間—法の人類学的機能』勁草書房、2018年

千葉正士『法社会学—課題を追う』成文堂、1988年

フィリップ・ノネ／フィリップ・セルズニック『法と社会の変動理論』岩波書店、1981年

長谷川晃編『法のクレオール序説—異法融合の秩序学』北海道大学出版会、2012年

**10. 授業時間外学習：**

教科書・参考書の予習と、書評の執筆

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

**12. その他：**

講義予定は諸般の事情により変更することもあります。

科目名：文化人類学特論Ⅳ／ Cultural Anthropology(Advanced Lecture)Ⅳ

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中（1学期）、単位数：2

担当教員：嶺崎寛子（非常勤講師）

講義コード：LM98814、科目ナンバリング：LGH-CUA604J、使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

中東イスラーム人類学

2. Course Title (授業題目)：

Anthropology of Islam and the Middle East

3. 授業の目的と概要：

文化人類学およびジェンダー学のアプローチを利用して、中東に住むムスリム（イスラーム教徒）の社会と文化および、パキスタンから先進国への移民の文化とアイデンティティを動的に把握する方法を検討します。本科目では事例として、エジプトおよび、英領インドで興ったスンナ派系の少数派、アフマディーヤ教団を主に取り上げます。ファトワーというイスラーム法学の運用にあたる法的言説をも扱うため、文献資料も講義担当者は使いますが、もともと文化人類学はフィールドワークを重視する学問です。人類学は調査地での人々との出会いに重点を置くことから、大衆の視線を意識した学問であるという自負があります。しかし、「百聞は一見にしかず」とは言え、調査地で見たこと、聞いたことを全て記述すれば「活きたイスラーム」の理解につながる訳ではありません。中東やイスラームを扱った民族誌の考察を通じ、異文化理解の面白さや難しさを学びます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course surveys cultural anthropology and gender studies for studying Muslim societies and cultures in the Middle East and Muslim migrants from Pakistan to developed countries. The case studies we look at are mainly from Egypt and Ahmadiyya. Our goal is to examine the strengths and weaknesses of anthropological approaches in studying everyday lives of Muslims around the globe.

5. 学習の到達目標：

- ・中東諸国の文化と社会の主な特徴を把握する。
- ・中東地域への文化人類学的なアプローチの基本を理解し、問題点を検討する。
- ・アフマディーヤ教団を別の参照軸として、中東と先進国で移民として生きるムスリムとを比較する方法論を検討する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

1. To gain an overview of the main characteristics of cultures and societies in the Middle East.
2. To discuss the strengths and weaknesses of social anthropological approaches to the Middle East.
3. To become familiar with theoretical frameworks for comparing and contrasting Muslim societies from different parts of the world.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1日目

- 1：中東・イスラームへの文化人類学的アプローチと先行研究
- 2：ジェンダー・オリエンタリズム1
- 3：ジェンダー・オリエンタリズム2
- 4：中東における開発とジェンダー

2日目

- 5：イスラーム世界の多様性
- 6：イスラーム法学の系譜
- 7：スンナ派とシーア派、および「ムスリム」の境界線
- 8：身分法から読み解く国家とイスラームの関係

3日目

- 9：多元的法体制
- 10：ジェンダーとイスラームの交差点—イスラーム電話を事例に1
- 11：ジェンダーとイスラームの交差点—イスラーム電話を事例に2

4日目

- 12：多民族・多言語国家としてのパキスタンとアフマディーヤ
- 13：移民経験とアフマディーヤ・アイデンティティ
- 14：国際移動とジェンダー
- 15：総括

8. 成績評価方法：

リアクションペーパー（講義が終わる30分前に、その日に学んだことや気づいたことをA4一枚にまとめ、提出してください。）[40%]、レポート（講義終了後に、講義に関連した問を各自で立てて文献を収集し、その間に答える形でレポートを提出し

てください。赤を入れてお返します。) [60%]

**9. 教科書および参考書：**

教室で指示する。

**10. 授業時間外学習：**

授業の復習と、レポート執筆。

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**12. その他：**

やる気と好奇心のある方の受講を歓迎します。中東の人類学に関する授業ですが、人類学以外のアプローチで中東を研究する学生、中東をフィールドとしない文化人類学を専攻する学生を歓迎します。講義予定は受講生のニーズや諸般の事情により変更することもあります。

科目名：文化人類学研究演習 I / Cultural Anthropology(Advanced Seminar)I

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

Semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：越智 郁乃（准教授）

講義コード：LM11303， 科目ナンバリング：LGH-CUA605J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：文化人類学研究演習 I 】

**1. 授業題目：**

文化人類学の視野と思考

**2. Course Title (授業題目)：**

Cultural Anthropology(Advanced Seminar)I

**3. 授業の目的と概要：**

文化人類学についての理論および民族誌的研究を精査することで、主要な概念と関心の動向を検討する。

**4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)**

Closely examine theories and ethnographic research in cultural anthropology and analyze the trends in major conceptualizations and concerns of the discipline.

**5. 学習の到達目標：**

文化人類学の研究動向を体系的に理解し、自身の問題関心を展開させる。

最終的には、自分の研究主題についての文献リストと主要文献のレビューを作成する。

**6. Learning Goals(学修の到達目標)**

Systematically understand the research trends in cultural anthropology and develop one's own research interest.

Create working bibliography and compete literature review regarding one's own research theme.

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. イントロダクション
2. 研究動向の整理と検討
3. 研究動向の整理と検討
4. 文献講読
5. 研究動向の整理と検討
6. 研究動向の整理と検討
7. 研究動向の整理と検討
8. 文献講読
9. 研究動向の整理と検討
10. 研究動向の整理と検討
11. 研究動向の整理と検討
12. 文献講読
13. 研究動向の整理と検討
14. 研究動向の整理と検討
15. 最終報告

**8. 成績評価方法：**

発表[40%]、授業参加[20%]、最終レポート[40%]

**9. 教科書および参考書：**

授業中に指示する。

**10. 授業時間外学習：**

毎回、課題に沿ったレジュメを作成する。

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

**12. その他：**

科目名：文化人類学研究演習Ⅱ／ Cultural Anthropology(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：2学期， 単位数：2

担当教員：川口 幸大（准教授）

講義コード：LM21304， 科目ナンバリング：LGH-CUA606J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：文化人類学研究演習Ⅱ】

**1. 授業題目：**

文化人類学の視野と思考

**2. Course Title (授業題目)：**

Cultural Anthropology(Advanced Seminar)Ⅱ

**3. 授業の目的と概要：**

文化人類学についての理論および民族誌的研究を精査することで、主要な概念と関心の動向を検討する。

**4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)**

**5. 学習の到達目標：**

文化人類学の研究動向を体系的に理解し、自身の問題関心を展開させる。

最終的には、自分の研究主題についての文献リストと主要文献のレビューを作成する。

**6. Learning Goals(学修の到達目標)**

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. イントロダクション
2. 研究動向の整理と検討
3. 研究動向の整理と検討
4. 文献講読
5. 研究動向の整理と検討
6. 研究動向の整理と検討
7. 研究動向の整理と検討
8. 文献講読
9. 研究動向の整理と検討
10. 研究動向の整理と検討
11. 研究動向の整理と検討
12. 文献講読
13. 研究動向の整理と検討
14. 研究動向の整理と検討
15. 最終報告

**8. 成績評価方法：**

発表[40%]、出席[20%]、最終レポート[40%]

**9. 教科書および参考書：**

授業中に指示する。

**10. 授業時間外学習：**

毎回、課題に沿ったレジュメを作成する。

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

**12. その他：**

科目名：文化人類学研究演習Ⅲ／ Cultural Anthropology(Advanced Seminar) III

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：2 学期， 単位数：2

担当教員：沼崎 一郎（教授）

講義コード：LM24204， 科目ナンバリング：LGH-CUA607J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：文化人類学研究演習Ⅲ】

**1. 授業題目：**

英語古典原書講読

**2. Course Title (授業題目)：**

Classics in Cultural Anthropology

**3. 授業の目的と概要：**

文化人類学の古典であるフランツ・ボアズ『未開人の心性』改訂版（1938）の原書を精読し、学術的に正確な訳文を作成するという作業を通して、文化人類学における英語古典の精密な訳読の技法を習得する。

今セメスターは、第 6 章から第 8 章までを訳出する。底本には、メルヴィル・ハースコヴィッツの序文のある Free Press 版（1965）を用いる。

**4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)**

Read and translate selected chapters from Franz Boas, *The Mind of Primitive Man* (1938) and learn the academic way of understanding the classics.

This semester, we will read and translate chapters 6 through 8 using the 1965 version of the text.

**5. 学習の到達目標：**

(1) 学術的な英文の正確な訳読力を身に付ける。

(2) 文化人類学の古典の息吹に触れる。

**6. Learning Goals(学修の到達目標)**

1. Acquire academic translation skill.

2. Appreciate a classic in anthropological literature.

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

授業計画

第 1 回：導入、授業法式の説明

第 2 回：テキスト訳出 P. 137-138

第 3 回：テキスト訳出 P. 139-140

第 4 回：テキスト訳出 P. 141-142

第 5 回：テキスト訳出 P. 143-144

第 6 回：テキスト訳出 P. 145-146

第 7 回：テキスト訳出 P. 147-148

第 8 回：テキスト訳出 P. 149-150

第 9 回：テキスト訳出 P. 152-153

第 10 回：テキスト訳出 P. 154-155

第 11 回：テキスト訳出 P. 156-157

第 12 回：テキスト訳出 P. 158-159

第 13 回：テキスト訳出 P. 160-161

第 14 回：訳稿検討 P. 137-148

第 15 回：訳稿検討 P. 149-161

定期試験は実施しない。

**8. 成績評価方法：**

下訳の作成と授業時の訳文の修正作業への参加（50%）、訳注の作成（50%）による。

**9. 教科書および参考書：**

Franz Boas, *The Mind of Primitive Man*, Revised Edition, with a new foreword by Melville J. Herskovits. New York: Free Press, 1965.

**10. 授業時間外学習：**

毎週、2 頁ほどの英文の下訳を作成する。

授業での議論に基づいて、下訳を修正する。

訳注作成のための資料収集と分析を行う。

**11. 実務・実践的授業/Practical business：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

**12. その他：**

Prepare translations for 2 pages of the text each week.

Participate in classroom discussion on translations.

Collect and analyze materials for creating footnotes to translations.

科目名：文化人類学研究実習 I / Cultural Anthropology(Field Research) I

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時. 前期 水曜日 4 講時

Semester：1 学期, 単位数：2

担当教員：沼崎 一郎 (教授)

講義コード：LM13303, 科目ナンバリング：LGH-CUA608J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：文化人類学調査実習 I】

1. 授業題目：

フィールドワークの理論と方法

2. Course Title (授業題目)：

Theory and Method of Fieldwork

3. 授業の目的と概要：

文化人類学的調査に必要な基礎技術を、実際の訓練を通して習得し、様々な場面での応用について議論を通して学習する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Learn the basic skills needed for anthropological research through training and learn how to apply these skills to various social issues.

5. 学習の到達目標：

- (1) 文化人類学的な調査技法の習得。
- (2) 文化人類学的な調査技法の応用力の涵養。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

- (1) Acquire basic skills of anthropological research.
- (2) Acquire basic skills for applying anthropological research methods to social issues.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：導入 授業方法の説明

第2回：研究倫理1 特に人類学的フィールドワークの倫理

第3回：研究倫理2 特に調査報告執筆における倫理

第4回：研究方法1 非参与観察

第5回：研究方法2 参与観察

第6回：研究方法3 非構造的インタビュー

第7回：研究方法4 構造的インタビュー

第8回：研究方法5 ライフヒストリー法

第9回：研究方法6 文献データの収集法

第10回：研究方法7 音声データの収集法

第11回：研究方法8 映像データの収集法

第12回：分析方法1 質的データの分析法

第13回：分析方法2 量的データの分析法

第14回：分析方法3 映像・音声データの分析法

第15回：分析方法4 文字データの分析法

定期試験は実施しない。

なお、この予定は、受講生のニーズに応じて変更する場合がある。

8. 成績評価方法：

平常点 (50%) と研究計画書 (50%) による。

9. 教科書および参考書：

適宜、教室で指示する。

10. 授業時間外学習：

自身の研究に必要な文献収集と文献読解を行い、毎回授業前に進捗状況を報告するレジメを作成する。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

授業内容および進度は、受講生の研究状況に応じて変更する場合がある。

科目名：文化人類学研究実習Ⅱ／ Cultural Anthropology(Field Research)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 3講時、後期 水曜日 4講時

Semester：2学期， 単位数：2

担当教員：沼崎 一郎（教授）

講義コード：LM23303， 科目ナンバリング：LGH-CUA609J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：文化人類学調査実習Ⅱ】

1. 授業題目：

フィールドワークの理論と方法

2. Course Title (授業題目)：

Theory and Method of Fieldwork

3. 授業の目的と概要：

文化人類学的調査結果を報告書にまとめるために必要な基礎技術を、実際の訓練を通して習得し、様々な場面での応用について議論を通して学習する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Learn the basic skills needed for anthropological writing through training and learn how to apply these skills to other types of writing.

5. 学習の到達目標：

- (1)文化人類学的な調査技法の習得。
- (2)文化人類学的な調査報告執筆法の習得。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

- (1) Acquire basic skills for fieldwork
- (2) Acquire basic writing skills for anthropological reports.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：導入 授業方法の説明

第2回：エミックとエティック 「事実」と「解釈」の多重性

第3回：民族誌的記述1 参与観察の記述

第4回：民族誌的記述2 インタビューの記述

第5回：民族誌的記述3 文献資料の利用

第6回：民族誌的記述4 映像・音声データの利用

第7回：民族誌的考察1 「事実」と「解釈」

第8回：民族誌的考察2 先行研究との「事実」の対比

第9回：民族誌的考察3 先行研究との「解釈」の対比

第10回：民族誌的考察4 「事実」と「解釈」の総合的考察

第11回：論文執筆法1 「事実」と「解釈」の書き分け

第12回：論文執筆法2 論文の文体

第13回：論文執筆法3 論文の形式

第14回：論文執筆法4 パラフレーズの活用法

第15回：論文執筆法5 直接引用の活用法

定期試験は実施しない。

なお、この予定は、受講生のニーズに応じて変更する場合がある。

8. 成績評価方法：

平常点（50%）と研究実習報告書（50%）による。

9. 教科書および参考書：

適宜、教室で指示する。

10. 授業時間外学習：

自身の研究に必要な文献収集と文献読解を行い、毎回授業前に進捗状況を報告するレジメを作成する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practical business

12. その他：

前期の文化人類学調査実習Ⅰを必ず履修していること。

授業内容および進度は、受講生の研究状況に応じて変更する場合がある。

